

二十歳代表のあいさつ

宮竹 希実（大原中卒業）



本日は、二十歳を迎えた私たちの門出に際し、このような式典を開催していただき、誠にありがとうございます。

私たちが歩んできた二十年間には、嬉しいことやつらいことなど、振り返れば本当に様々な出来事がありました。そのどれもが、今の私たちをつくってくれた大切な時間であったと感じています。陰ながら一番そばで支えてくれた家族、ともに悩み、笑い合い、互いを支えてくれた友人。自分が進むべき道を見失いそうになったとき、導いてくださった先生方。その一つ一つの優しさに支えられ、今日の私たちがあります。まずは、そのすべての温かさに心から感謝を伝えたいと思います。

私は、今保育士を目指して勉強しています。その道を選んだのは、子どもたちと関わる中で、真っ直ぐな気持ちに触れたからです。子どもたちは、「やってみたい」「できるようになりたい」という思いに素直で、失敗してもまた挑戦しにいきます。その姿はいつも輝いていて、私自身も何度も力をもらってきました。そんな子どもたちを見ているうちに、“やりたい”という気持ちは、その子が未来へ伸ばしている大事な芽なのだと感じるようになりました。だからこそ私は、その芽を折らずに、そっと支えてあげられる大人になりたいと思っています。「どうしたい？」と子どもたちの気持ちに耳を傾け、「やってごらん」と見守り、その子のペースで成長していく姿を応援できる保育士になりたい。そんな思いが、これから進んでいく道をしっかりと照らしてくれています。

大人になるということは、自分自身の未来を選びながらも、誰かの未来にそっと寄り添える存在になることなのかもしれません。これまでに受け取ってきた優しさや温かい気持ちを、今度は私が次の世代へ返していきたい。そう思えるようになったことが、私にとって「大人に近づく実感」のひとつです。

今日、私たちは二十歳という節目を迎え、ここからまた新しい一步を踏み出します。まだまだ未熟なところもありますが、不安を抱えながらも、自分の選んだ道を信じて歩いていきたいと思います。そして、いつか出会う子どもたちの笑顔を守り、その“やりたい”を大切にできる保育者になれるよう、これからも努力を続けていきます。

最後に、今日この日まで支えてくださったすべての皆さまに、改めて心より感謝申し上げます。これからの私たちの成長を、どうか温かく見守っていただけたら嬉しく思います。

簡単ではございますが、以上で二十歳代表の挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。